

病 理 部

1 構 成 員

	平成15年3月31日現在
教授	0人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	2人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	1人
技官（教務職員を含む）	3人
その他（技術補佐員等）	5人
合 計	12人

2 教官の異動状況

三浦 克敏（助教授，副部長）（H5. 8. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3編（0編）
そのインパクトファクターの合計	4.44
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	6編（3編）
そのインパクトファクターの合計	3.66

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Mineta H, Miura K, Takebayashi S, Misawa K, Araki K, Misawa Y, Ueda Y.(2002) Prognostic

value of glucose transporter 1 expression in patients with hypopharyngeal carcinoma. Anticancer Res 22: 3489-94.

2. Mineta H, Miura K, Takebayashi S, Misawa K, Ueda Y, Suzuki I, Ito M, Wennerberg J.(2003) Low expression of fragile histidine triad gene correlates with high proliferation in head and neck squamous cell carcinoma. Oral Oncol 39: 56-63.
3. Mineta H, Miura K, Ogino T, Takebayashi S, Misawa K, Ueda Y.(2002) Vascular endothelial growth factor (VEGF) expression correlates with p53 and ki-67 expressions in tongue squamous cell carcinoma. Anticancer Res. 22: 1039-44.

インパクトファクターの小計 [4.44]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Miura K, Han G, Sano M, Tsutsui Y.(2002) Regression of congenital fibrosarcoma to hemangiomatous remnant with histological and genetic findings. Pathol Int. 52: 612-8.

インパクトファクターの小計 [0.94]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Nakamura T, Miura K, Maruo Y, Sunayama K, Maruyama K, Kashiwabara H, Ohata K, Fukazawa A, Nakamura S.(2002) Aggressive angiomyxoma of the perineum originating from the rectal wall. J Gastroenterol 37: 303-8.
2. 佐野倫生, 西村行秀, 神谷光太郎, 細川智彦, 長野 昭, 三浦克敏: 局所再発後自然消退したcongenital fibrosarcomaの1例. 東海骨軟部腫瘍 14: 7-8, 2002
3. 志賀克元, 佐野倫生, 西村行秀, 神谷光太郎, 長野 昭, 三浦克敏: 座骨に原発したと考えられる未分化間葉系腫瘍の1例. 東海骨軟部腫瘍 14: 53-54, 2002

インパクトファクターの小計 [1.20]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Yachida S, Fukushima N, Nakanishi Y, Nimura S, Sato M, Shimada K, Miura K, Sakamoto M. (2002) Phosphoglyceride crystal deposition disease. Presenting as multiple paragastric masses. Digestive Diseases Sciences 47: 1413-1418
2. 蓮見壽史, 空尾泰洋, 佐野克行, 三浦克敏: 尿管内反性乳頭腫の1例. 泌尿紀要 48: 171-173, 2002

インパクトファクターの小計 [1.52]

4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (万円)
(4) 財団助成金	0件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	4件 (360万円)

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	1件
(2) シンポジウム発表数	1件	0件
(3) 学会座長回数	0件	3件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	2件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際会議等開催・参加：

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

三浦克敏, Telepathology at Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu Workshop on digital pathology, Oslo Radium Hospital, Norway, 2002年5月

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

三浦克敏 Phosphoglyceride crystal deposition disease 6例の臨床病理学的特徴, 日本病理学会秋期特別総会 岡山, 平成14年11月14日-15日

3) 座長をした学会名

三浦克敏 城南病理-静岡県病理医会合同集団会 2003年1月, 横浜

三浦克敏 第6回日本病理学会中部支部スライドセミナー 2003年3月8日, 浜松

三浦克敏 第196回静岡県病理医会 2002年7月27日, 浜松

4) 主催する学会名

静岡県病理医会 (SPS) 2002年7月 浜松

5) 役職についている学会名とその役割

三浦克敏 日本病理学会中部支部 選挙管理委員

三浦克敏 日本病理学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	0件

(2) 国内共同研究

癌センターの坂元先生，谷内田先生，北里大学の三富先生，静岡済生会の北山先生から Phosphoglyceride crystal deposition disease（グリセロリン脂質沈着症）の診断依頼をうけ，報告書をおくり，確定診断を行なった。

岩手医大臨床病理の中村先生からはアミロイド症の症例を送っていただき，型の分類を行って報告を返している。また，小腸スピロヘータ症についても標本を送り，病理学会での発表をおこなう手伝いをした。その他，藤田保健衛生の溝口先生，浜松聖隷病院病理の清水先生からもアミロイドの型分類の依頼を受け付けている。

10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	1件

1. 浜松ホトニクスとのテレパソロジーの実用化に関する研究

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 日常の病理業務の中で診断困難な症例，希有な症例について症例の詳細な検討をおこない，症例報告をおこなっている。先天性の線維肉腫の症例や Phosphoglyceride crystal deposition disease の論文を発表した。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 浜松ホトニクスとのテレパソロジーの共同研究において，テレパソロジーの実用化にむけての検討をおこなった。学内の病理学講座と病理部との間で画像と音声を合わせた遠隔診断をおこない，問題点の解決に努めた。ヨーロッパ仕様のシステムであり，テレパソロジーの実用化に当たり，途中のエラー操作によって画面がフリーズする点や画面を変換するとピントが合わなくなるなどの問題点が明らかとなった。オスローにおける workshop において浜松医大の経験について発表をおこなった。

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 耳鼻科との共同研究により，頭頸部の主たる腫瘍について，遺伝子発現と予後との関連や腫瘍の発症因子について毎年，論文発表を行なっている。

2. Phosphoglyceride crystal deposition diseaseについては癌センターの坂元先生，谷内田先生と共同研究をおこない，新しい沈着症として学会発表と論文発表をおこなった。現在までに6例の症例があつまり，論文の準備をおこなっている。

15 新聞，雑誌等による報道